
学園日和！ ~Tomorrow's hope.

天月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園日和！～Tomorrow's hope～

【Zコード】

Z2495Q

【作者名】

天月

【あらすじ】

この小説は、「ギャグマンガ日和」の学園パロディ小説となっています。

イカ…じゃなくって以下注意事項です。 作者の嗜好により「腐向け」・「BL」となつております。

苦手な方・不快感を得る得る方は観覧を「遠慮してください。

#00 人物紹介1（前書き）

飛鳥組（太子と妹子）の紹介です

上宮太子 3年

生徒会長であり、校長の息子で理事長の甥。

曾良とは幼馴染でほぼひつき虫状態。強いて言うなら親子。学年1位の天才だけど、天然という名のバカ。

妹子が大好き。スキンシップ＝下心の愛情表現。

テンション高男で閻魔と良くなはしゃぐが、まれに（曾良の影響で）冷たい発言をすることだつてある。

人が良く優しいので皆から頼られている。…多分

前世の記憶はだいたい覚えてるが嫌なことは靄がかかっている

小野妹子 2年

生徒会役員。太子とは中学からのお付き合い（違）

鬼男とは同じクラスで仲が良い。さながら兄弟？

曾良とはほぼ太子の取り合い状態

何故か学年5位。上にもいけなければ下にもいけない。

太子が大好きすぎる。自覚したら吹っ切れたようです。デレ芋ルート一直線。

ツツコミ気質なので太子のアホ行動、その他モロモロにつっこむ。

アリの巣穴とか
しつかり者で真面目なので、太子とはまた違った意味で頼られている。

前世の記憶はないが、太子の事は心が覚えていたようだ。

#00 人物紹介2（前書き）

天国組（閻魔と鬼男）の紹介です

闇音エンマ 3年

生徒会副会長。太子とは高校からのお付き合い（だから違う）
鬼男とは幼馴染で、太子同様ひつつき虫。ただしエンマは恋愛感情
である。

学年2位。いつも僅差で太子に負けてしまうのがくやしいらしい。
太子と鬼男がお気に入り。本命はやや太子によっている
テンション高男で皆を振り回すのとからかうのが趣味（主に被害者
は太子と妹子）

根は優しい子で案外空気が読めている。セーラー大好き変態大王イカ

山城鬼世 2年

生徒会役員。

エンマとは幼馴染で、ひつつかれ虫。

何故かいつも学年6位。芋とは僅差で負けてる。だから何故だ！
なんだかんだ言いつつ、エンマが大切。もっとちゃんとアピールし
たいけど恥ずかしい

しつかり者で曲がったことは許さない人のため、エンマの奇行に毎
度つつこんでる。

本名は「きよ」だが、エンマに「女の子みたいだから」の理由で「
鬼男」というあだ名になっている。

元々闇魔大王の秘書だが、転生したためその頃の記憶は無いがエン
マの事はぼんやりと覚えている。

#00 人物紹介3（前書き）

細道組（芭蕉と曾良）。そしてオマケの紹介です

#00 人物紹介3

まつお ばじょう
松尾芭蕉 国語教師

生徒会顧問。太子とエンマのクラスの先生でもある。判りにくいが曾良に懐かれている。本人も懐いてる。優しいことで有名だが頼りない。機会オンチのアナログ派のお方。生徒は皆可愛いし大切なのでいつも生徒の味方。でもやっぱり頼りない。

前世の記憶は無いが、たまに変な感じになるらしい（あそこは行ったことないのに行つた事あるような感情になるとか）

河合曾良 2年

生徒会役員。太子の幼馴染でお母さん（仮）判りにくいが芭蕉先生に懐き懐かれている。暴力こそ愛情表現。学年2位。何故だ！と良く妹子と鬼男につっこまれるがスルー。クールでほぼ無表情で感情が読み取れないが、長年付き合つてゐる人はだいたい判るらしい（太子と芭蕉（何故か）は手に取るようにわかつてゐる）

良く太子との関係に（妹子に）誤解されるが、断じて恋愛感情ではない。彼の恋愛感情は全て芭蕉へと向けられている。

前世の記憶はうつすらと覚えていて、少なくとも芭蕉のことは覚えていた。

うえみや とよひの
上富豊日 学校長

太子のお父さんで「日和学園」の校長先生。

生徒目線で物事を考えてくれる、とても良い先生。
ただし親バカである。

蘇我馬子 そが うまこ 理事長

太子の叔父で「日和学園」の理事長。

校長とは正反対ではあるが、生徒のこともちゃんと考えてくれている良い先生
怖いのが第一印象で必殺技を各種もっている。
叔父バカ。

#01 プロローグ・「後世の契」

私に残された時間はあと僅か
これが運命だというのなら、私は受け入れよう
その前に、最期だけ、我慢を許して……

「ねえ、妹子……」

「はい……なんですか……？」

逝かせないよ、僕は彼の手を握る。元々痩せ、細い指は、もう骨と皮だけで、唯一、暖かい体温が彼が生きていることを知らしてくれた。

彼・太子は、いつものようにお願いするよ、僕に笑いかけた。
貴方の願いは何でも叶えてみせる。カレーも、わんちゃんもつれてきてあげます。貴方が望むなら。

我ながらアホだな、と思う。けれど、この人がただただ愛しいだけなのだ。

要は、惚れた者負けというわけで。

「約束、してくれる？」

「はい。貴方との約束なら、守つてみせます」

「…ありがとうございます。あのね

*

「……つたぐ、どこまでバカなんですか……、芭蕉さん

もつこの世には居ない、あの人に向かつて未だ悪態をついていた。
別に、看取りたかったとか、そういうのではない気がする。
僕をイラつかせているのは、ただ、ただ……

貴方の苦しみに気付けなかつた、僕自身に、心底イラついているんだ。

そして、貴方の旅に最後まで付いて行けなかつた、その後悔。

「ツ……芭蕉、さん……」

今の僕が居るのは、あの人のお陰なのに。
僕は、あなたの最期を、見ることすらできず、あなたとの旅を続けることもできず。

……あなたを哀しませてばかりで。

だから、約束しますよ、師匠。

「もしも、来世で出逢つたならば

*

「厩戸皇子、貴方は天国逝きだよ」
「……大王さまが、言つならそれでいいかな。ね、大王さん、一個
お願ひきいてくれる?」

「なに？」

「小野妹子つて奴がきて、もしも逝く先が地獄だつたら、私も地獄にしてくれる？」

「……どうして？」

「妹子が居ない天国なんて、私にとつては地獄と同じだもん」

「貴方のお父様は、天国にいるんだよ？」

「父上には、悪いけれど、私は妹子と一緒に居たいんだ」

「……そつか。考えておくよ」

「ありがとう。大王さん」

「河合曾良、貴方は天国だよ」

「そうですか。……閻魔大王、貴方に一つ聴きたいことがあります」

「なに？」

「天国には、松尾芭蕉と呼ばれる方はいらっしゃいますか？」

「……ああ、いるよ」

「……ありがとう」「やれこます」

もしも、来世で出逢つたら、また一緒に居てもいいですか？

#01 プロローグ・「後世の契」（後書き）

太子と曾良君の約束。結局は一緒なんです

史実で曾良君は芭蕉さんの死に際を見れなかつたとか。そこから引用させていただきました

妹子は太子の死後、太子のお墓にお花を添えていた説が。どんだけ太子が好きなんだつー話だよ（

太子が「それでいい」と言つたのは、やっぱ過去があるから。人を殺したのに天国にいける喜びじゃなく、太子にとつて妹子がいればどっちでもいい。という、ね
こういう妹太が大好きです。たいも？いいえ、妹太です。妹太なん
で「y

#02 「天子の笑顔」（前書き）

*キャラ崩壊があるかもしれません。

#02 「太子の笑顔」

「おはようございます」
「おー！ 妹子おはよーーー！」
「妹子ちゃんおはよーーー！」
「おはよ、妹子」
「おはようござります」

今日は入学式で、僕ら生徒会は進行役のために出なればならなく、他の生徒より早く学校に来なければならなかつた。

「皆さん、早いですね」
「太子さんが居るので」
「大王が居るからなー」
「経験者なんで ー」

見事に文末そろえてるよ、この人たちー（僕もだけど）
にしても、あー耳にイラつくものが……
全員集まつたところで、生徒会長 我らが上宮太子が立ち上が
つた

「よーし、今日は入学式。初々しい私達の新たな後輩がやつてくるー。
そこでだ。第一印象は大切。だよな？ 妹子？」
「えつ、は、はい」

可愛いなこんにゃ らつーー 笑顔で問うなーー

確か…去年の僕（と曾良と鬼男）の入学式の日は…別になんも変哲
なかつたな…

「第一印象。すなわち、この学校がどーいう中身かが大体わかつてしまふ。

悪い印象なんて私は残すつもりは無い。…けど、良い部分だけを述べるつもりなんて、さらさらない」

「？ それってどゆ」と？

「良い部分も、悪い…いや、改善点を述べてこそ、この学校を受け入れてもらえる。…私はそう思つんだ」

にこゝと太子はまた笑つた。…ちくしょう、寂しそうに笑いやがつてその時、生徒会室の扉が勢い良く開いた
曾良以外はびっくりしてそつちを向くと…

「太子ーーーーー カッコよかつたよ今の一ーーーーー

「うわつ、父上…」

「もーつ！ さすが私の息子ーー 可愛くて何でもできる、まさにでき「五月蠅いです。黙つてください父上」…曾良に似たねえ…ますます…」

おとうs…げふん、この学校の校長・豊口校長だ。ちなみに太子のお父様

第一印象はただの親バカ。太子が唯一テンションについていけない人でもある

反抗期だろう。うん。あの親バカには見て呆れる

「豊口」

「うわ、馬子さんー」

「馬子さん、この人をつと連れて行ってください」

「わかつた」

「ちょ、2人とも辛辣ーーーーー」

「行くぞ」

：こうして、ひとつめの嵐が去った
そして入れ違いに

「皆へ、ごめんね、松尾遅れちゃつて…」

「アノハナ、めぐらしく運んである細難れん」

（…校長先生との違いがパネエ）

鬼（……反抗期つて怖いですね）

妹（太子らしげど）

*

あーっ、やっぱり緊張するなあ……、人の前つて……
しかも私は皆の前で話さないといけないし……。今更ながら超緊張する！

そのとき、ぎゅ、と誰かに手を握られた
えーと、私の横に居るのは……

「大丈夫で
「妹子」

「大丈夫ですよ、太子。貴方ならできます」
「うん。ありがとう」

ありがとう、妹子

『 生徒会長・上富太子のお話です 』

マイク越しの曾良の静かな声が響いて、それに反応するように太子はステージへと向かっていく
転ぶなよ……、大丈夫だろうけど
手を握ることくらいしか、貴方の緊張を解すことができない僕でも、少しでも貴方の力になりたいから……

「えー、皆、入学おめでとうでおまー、私は生徒会長の上富太子だーー、ちなみにこの学校の、アホ（小声）校長の息子でもあるけど、皆、気使わなくていいぞー！」

閻（アホって、あの太子がアホって！）

曾（…珍しいですね）

鬼（どんだけ嫌いなんだ…）

妹（反抗期でしう）

こほん、と太子はひとつ咳払いをし、話を進めた

「この学園は、皆面白くて、皆良い奴ばっかりだ！だから、皆も早くなれて、私達と一緒にこの学園を盛り上げて欲しい。っていうか盛り上げるぞー！」

私は目指しているのは、皆が仲良しな、そんな学園だ。それを叶える為に、1年も、2年も、3年も、先生達も。仲良くなつてほしいんだ。私が思つてゐるのはこれだけ！それじゃ、会長のお話、オシマイなー！」

最後の最後に、天子…いや、天使にも思えるような笑顔を新入生に向けて、太子は話を終らした

話が終つた途端、大きな拍手やらなんやらが巻き起こる。隣でも「太子カツコヨー！」と言つてる親バカ《校長》もいる。女子達だつてキヤーキヤー言つてるし……ああ、お前ら蠅人形にしてやろつか？

そして次々とプログラムが流れていき、やつと入学式が終つた
：僕たちはまだ「後片付け」があるけれど

続く

#02 「太子の笑顔」（後書き）

短いし中途半端ですいませんへへ；
次回からは長く…したい、な…（（

妹子が太子好きすぎてすいません。

用明パパが親バカですいません。

太子がパパに対して辛辣なのもすいません。反抗期なんですああ見
えて。

でもこれが私の中の日和です。

次回はがちもた（ガチ妹太）だと想います…！

お芋はデレルートをつっぱしり、太子はシンデレルートを走つてい
るよ！
では！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2495q/>

学園日和！ ~Tomorrow's hope.

2011年1月26日03時01分発行